

金融ADRあっせん人・仲裁人候補者



写真

氏名	佐藤 安信
ふりがな	さとう やすのぶ
事務所住所	サステナ法律事務所 〒165-0033 東京都中野区若宮 1-4-19
電話	03-3330-5916
F A X	

<p>主な経歴 (登録年月日, 弁護士活動 や主な公益活動等)</p>	<p>1. 弁護士登録年月 1984年 6月</p> <p>2. 委員会関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 弁護士研修センター運営委員会 (東京弁護士会) ・ 紛争解決センター運営委員会 (東京弁護士会) ・ 国際交流委員会 (日弁連) <p>3. その他 (著書, 公職など)</p> <p>< 主な経歴 ></p> <p>1982年 早稲田大学政治経済学部政治学科卒業 (81年司法試験合格)</p> <p>1984年～1988年 佐藤法律事務所、高橋勉法律事務所 (東京弁護士会登録)</p> <p>1988年～1991年 Cleary, Gottlieve, Steen & Hamilton LLP (New York, Washington, D. C.) 勤務、Loeff Claey's Verbeke (Amsterdam, Brussels) 勤務</p> <p>1991年～1993年 国連難民高等弁務官 (UNHCR) 事務所法務官、国連カンボジア暫定統治機構 (UNTAC) 人権担当官 (カンボジア)</p> <p>1993年～1999年 三井安田法律事務所 (国際金融法務) 勤務 (うち 1995年～1997年、欧州復興開発銀行 (EBRD) 法務部弁護士)</p> <p>1999年～2000年 名古屋大学大学院国際開発研究科助教授</p> <p>2000年～2005年 同教授</p> <p>2002年～2003年 「国家と法」研究所客員研究員 (Viet Nam)</p> <p>2004年～2023年 東京大学大学院総合文化研究科教授</p> <p>2005年～2023年 長島大野常松法律事務所顧問</p>
---	--

	<p>1999～現在 日本弁護士連合会国際交流委員会委員 同国際司法支援センター委員</p> <p>2018年～現在 「ビジネスと人権」ロイヤーズネットワーク運営委員</p> <p>2022年～現在 一般社団法人ビジネスと人権対話救済機構)JaCER 調停人候補者</p> <p>2023年～現在 早稲田大学アジア太平洋研究センター特別センター員</p> <p><主な著書></p> <p>佐藤安信編著 2021 『アジアからの「ビジネスと人権」の主体的な取組を促す 企業における「人間の安全保障」インデックス(CHSI)プロジェクト 報告書』持続的平和研究センター</p> <p>2021 「難民に関するグローバル・コンパクト」のためのネットワーク・ガバナンス：難民の国際保護に関するアジア・ネットワークの可能性 『国際関係と国際法』小和田恒国際司法裁判所裁判所裁判官退官記念 信山社 pp. 101-125</p> <p>2021 ベトナム商事仲裁法、民事訴訟法の課題：外国仲裁人への損害賠償請求訴訟の事例から 仲裁・ADR フォーラム vol. 7 p. 86-98</p> <p>2020 ベトナム国際商事仲裁と民事訴訟実務：私はなぜハノイ人民裁判所に訴えられたのか？ 一帯一路構想を担う中国国際商事裁判所と日本の司法外交。『アジア法研究 2019』13. pp41-73. アジア法学会。(査読有)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 2018, “Rule of Law for Whom? Human Security Perspectives on the Emerging Asian Market for SDGs: Focused on Cambodian Case Study,” 45 JMCL 1, 27-45. (査読有) • 2017, “Japan’s Approach to Global Democracy Support: Focused on Law and Judicial Reform Assistance,” Michael R. Austin, <i>et al</i> (eds.), U.S.-Japan Approaches to Democracy Promotion, Sasakawa Peace Foundation USA, 37-44. • 2015, “Human Security Approach to Human Rights Due Diligence: Why business needs human security index,” 4 Journal of Human Security Studies 2 Autumn (査読有) 87-108. • 2015 “Nuclear Power and Human Security: Lessons from the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant’s Accident,” Patrick Keyzer, <i>et al</i> (eds.), Access to International Justice, Routledge, London and New York, 241-254. • 2012 “Human Security and Peace-Building Paradigm: A Japanese Experience and Perspective,” in Nishikawa, Jun, <i>et al</i> (eds.) Economic and Policy Lessons from Japan to Developing Countries, Palgrave Macmillan, pp 255-268.
--	--

	<ul style="list-style-type: none"> • <u>Yasunobu Sato, et al</u> (2010) “The UN Global Compact as a catalyst for human security: proposal from Japan for CPR (corporate peace responsibility) in Malcolm McIntosh, et al (eds.), <i>New Perspectives on Human Security</i>, Greenleaf Publishing, 124-138. • 2010 『法の支配』のジレンマ：カンボジアの法整備支援の課題と展望」法律時報 Vol 82, No. 1/1017, 11-16. • 2010「JCAA と VIAC の JV による日越ビジネス紛争処理パネル設置構想」仲裁・ADR フォーラム Vol.3, 33-43. • 「日系企業のベトナムへの直接投資における法的トラブル」（JCA ジャーナル 2010年6月号 第57巻6号、日本商事仲裁協会） • “How to deal with corruption in transitional and developing economies: A Vietnamese Case Study” (Journal of Financial Crime Volume 16 Issue 3, July 2009, Emerald Group Publishing Limited) • “Hybrid Dispute Processing in Japan: Linking Arbitration with Conciliation” (Vijay K Bhatia 他編 <i>Legal Discourse across Cultures and Systems</i>) • 「仲裁手続きの開始及び仲裁手続における審理」（小島武司・高桑昭編『注釈と論点 仲裁法』青林書院、2007） • 「市場経済化と紛争処理の近代化」（名古屋大学法政国際教育協力センター、研究成果報告書、第3巻、法整備支援と市場経済化（土地と利用）、2007） • 「ベトナムにおける紛争処理制度の近代化」（アジア法研究、アジア法学会紀要、2007） • <i>Commercial Dispute Processing and Japan</i>, Kluwer Law International, The Hague, Boston, London(2001) • 「英国の金融紛争処理(ADR)の概要と動向」JCA ジャーナル7月号, 2-10. (1999)
金融機関側・顧客側の別	金融機関側 ・ 顧客側 いずれも可

主な取扱い分野	国際商事紛争、仲裁、調停、あっせん ビジネスと人権
あっせん人・仲裁人の メッセージ	<p>大蔵省の日本欧州協力プログラムで、EBRD 法務部に出向し、旧ソ連、東欧の法整備支援を担当、中央アジアにおける仲裁法プロジェクトを企画実施した。帰国後、JICA 専門家としてベトナム・カンボジアなどにおける法整備支援にかかわり、現地での紛争処理などを調査研究している。またアジアでの仲裁制度の研究などもしている。</p> <p>ロンドン大学の博士論文は、日本における商事紛争処理の発展を、英国法、UNCITRAL のモデル法などと比較して研究したもので、国際商事紛争などにも精通している。</p> <p>日本商事仲裁協会の仲裁候補ばかりでなく、ベトナム国際仲裁協会（VIAC）の外国人仲裁人候補者としても登録されている6名のうちの一人</p>